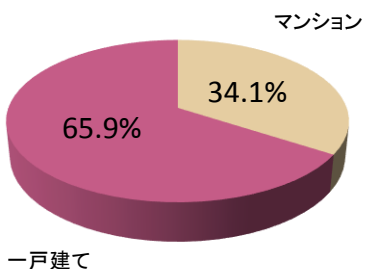


今、既婚女性が求めていたのは、 「あったらいいな」がすべてそろう 都市型郊外ライフでした。

一生に何回も無い高価な買物だから、街選びも家選びも慎重にしたいのが住宅探し。首都圏に住む20～30代既婚女性に聞いた「理想の街と家」は、あれもこれも、と盛りだくさん。贅沢で、貪欲で、ワガママで... 女性の「家」に対する願望やこだわりは尽きないけれど、意外に現実的で、手が届く理想をしっかりとわきまえていたりもする。雑誌やインスタでしっかりイメージトレーニングした彼女たちの本音を探ってみました。

【理想の住まいに関する調査】

Q1 理想の住まいはマンション？一戸建て？

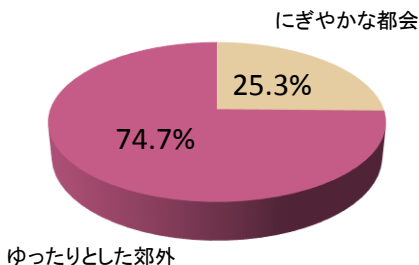


- ・ マンションよりも一戸建ての方が立体的なので、家の中の収納や物置など、収納スペースが多い。
- ・ 一戸建ての方が日当たりが良い、通風が良い、健康的に暮らせそう。
- ・ 庭でバーベキューや燻製をしたい。
- ・ 子どもが自由に遊べるスペースが欲しい。
- ・ 緑の多い広い庭を眺めながらぼーっとしたい。
- ・ 玄関とリビングが広い／ガーデニングがしやすい庭／運動ができる地下室／二階と繋がってる吹き抜け／各部屋に、大きな収納。
- ・ お友達を呼んでホームパーティしたい／自宅で教室など開きたい。

収納量が一戸建ての方がマンションよりも確保できるから、という実利的な回答も見られましたが、「庭」に関わるご意見が多数。やはり「家」と「庭」があって、「家庭」というイメージがあるのでしょうか。

【住まいの立地に関する調査】

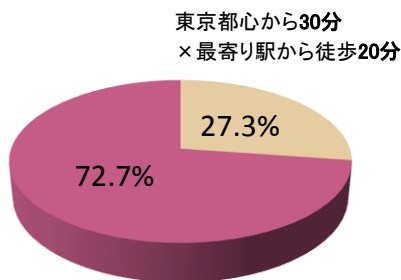
Q2 理想の住まいはにぎやかな都会？ゆったりとした郊外？



- ・ 自然が豊かなところ。
- ・ 大きな公園がある。学校の校庭が広い。子どもが多いところ。
- ・ 子供が住みやすいまち。静かなところ。
- ・ 近所に子供連れて入りやすい施設が多い。
- ・ 日当たりを遮る建物がない。
- ・ 同じような年代が多いニュータウンがよい。
- ・ 隣りの家と距離がある。
- ・ 治安がよいところ。

予想に反して、圧倒的に「郊外」派が多い結果になりました。子育ての場は郊外の方が良い、との見方は、今でも多数派のようです。

Q3 理想の住まいの場所は、都心から電車で30分＋最寄駅から徒歩20分？
都心から電車で1時間＋最寄駅から徒歩10分？



東京都心から1時間
× 最寄り駅から徒歩10分

- ・ 駅だけでなく、スーパー、小児科、図書館などが、何でも徒歩圏にあるところ。
- ・ 駅に近いところの方が、買物等の便も良いから。
- ・ 駅までのアクセスがフラットで、夜道も怖くないことが優先。
- ・ 子どもが小学生になったら、働きたいから。
- ・ 子供が幼稚園に上がったならパートなどをして、もう少し大きくなったら本格的に自分の好きな仕事をしたい。
- ・ 子どもが生まれたら、今の仕事を辞めて、もっと近くで働けるようにしたい。
- ・ 子供優先で無理なくキャリアアップしていきたい。

駅に近い＝色々な生活利便施設にも近い、という声が多数挙がりました。

その一方自分の仕事との関係を挙げる人も多数。

駅に近いことは、職場にも近い、色々な可能性を広げる機会が得られると考えられているようです。

Q4 理想の住まい立地条件は？(具体的に)

スーパー、デパートが
徒歩5分以内にある
駅まで5分以内である
大通りから通り1つ中
に入った家

幹線道路に面していない
駅までの道が夜でも真っ暗ではない
近くにジョギングできる程度の公園がある
徒歩圏内にコンビニがある
自転車圏内の商業施設が充実している

最寄駅からのアクセスが
フラットである
自転車で10分以内に必要
な商業施設が一通り揃う
海拔が低すぎず、比較的
地盤がしっかりした立地

スーパー、公園、小
児科、学校に近い
子育て支援が充実し
ている
子育て世代が多い

スーパーが近
い
児童館、公園
が近い

近くに公園がある
近くに小中学校がある
駅が近い
徒歩で行けなくてもいいが近場に
ショッピングモールがあるといい
近くに児童館がある
図書館や市役所が近い

近所に子供連れで入りや
すい施設が多い
徒歩圏内に複数のスー
パー、複数のコンビニが
あって買い物先の選択肢
が多い
駅まで徒歩圏内であること

子供が遊べる公園が近くにある
同じくらいの子供がいる世帯が多いところ
病院が近くにあるところ
買い物できるお店が近くにある(商業施設:
ショッピングモール)
子供が通う学校が近い(小さいときに通う小
学校など)

徒歩圏内に商業施
設がたくさんある
映画館、温泉、
プール、飲食店、
衣類店など

スーパー・商業施設に近い 44%
駅に近い 21%
公園に近い 21%
治安が良い 17%
学校に近い 12%
図書館に近い 11%
周囲が囲まれていない 11%

郊外だから自然があればそれでよい、との回答はほぼゼロでした。

駅だけじゃなく、公園もスーパーも図書館も学校も。
とにかく身の回りに色々な物が揃っているのが理想！

ひとりの方が、多くの回答を挙げているのも特長的でした。

【住まいの立地に関する調査】まとめ

にぎやかな都会よりも、ゆったりとした郊外を選ぶ。でも、郊外だから「自然」ばかりではダメ。

駅に近く、買物施設に近く、公園にも図書館にも近く。自分が必要とするもの、

子どもが必要とするもの、すべてに「近い」のが理想的な立地条件。

ただの郊外ではなく、働く機会も確保された「都市」的要素も満載された新しい「郊外」ライフの可能性。

既婚女性が求める暮らしの「場」は、何でも揃う、新しい「郊外」とも捉えられそうです。

【住んでみたい家に関する調査】

Q5.住んでみたい家を教えてください(具体的に)

玄関周辺に土足で入れる収納スペースがある
リビングから一続きで使えるテラスがある。そのテラスが、外の空気や日差しを程良く取り入れられ、且つ外からの人目を気にせず使えるスペースである
布団を収納できるスペース(布団クローゼットか押し入れ)がある

収納がとにかく充実している。奥行きがある収納が良い
大型のシューズクローゼットがほしい
リビングが20畳位欲しい。2階に4部屋以上欲しい
駐車場だけでなく、自転車を家族分おけるスペースがある(屋根付きがよい)

陽当たりが良い。風通しが良い
庭やリビングの掃出しが外部から見え辛い
収納が多い
隠し部屋がある

ウォークインクローゼット、ウォークインシューズクローゼット、倉庫、掃除しやすいお風呂、ディスポージャー、室内干し可能な設備、たくさんの収納、害虫駆除設備

ものを増やしたくないのでできる限りのクローゼットなどの収納が付いている家が良い
玄関が広く2.3人が座って靴を脱げるくらい、お風呂場は広め、リビングは広く吹き抜け
和室または畳のスペースがリビングにくっついている
オープンキッチン アイランドキッチン
トイレ広く手洗い場がトイレの中にある、ベランダ広め

庭、ウッドデッキがある
広いシステムキッチン、パントリー
玄関土間クローク
ウォークインクローゼット
太陽光発電、夏涼しく冬暖かい
風通しがいい、日当たりいい

土間が広い、アトリエとして使える
ウォークスルークローゼットがほしい。生活導線が便利
ベッドの出し入れなど、生活時間帯によって変化が付けられる

収納が充実しているが外から分らないようになっている
冬も夏も快適に過ごせるような仕組み
省エネの設備(節水トイレや節水シャワー、雨水タンク等)

LDの上部が吹き抜けで、リビングゲイン階段。階段を登った2Fホールが広く、セカンドリビングになっている
階段下は子供の隠れ家的遊び場

ひとりひとりのフリーアンサーの文章量の多さにビックリ。
ひとつとして同じ家はない。誰もが頭の中に、「理想の家」を描いていることがわかりました。

Q6 住宅を購入したらしてみたいことを教えてください(具体的に)

テラスで外の空気を感じながらお茶やお酒を楽しんだり、読書をしたい

沢山の友達を呼んでワイワイパーティーしたい

地下に運動室を作って、家族で運動したい

お友達を呼んでホームパーティーしたい

外に出かけるより、家にいる方が快適で贅沢と思える過ごし方をしたい

自宅でできる仕事をしたい

アクアテラリウムを置きたい

自宅で教室など開きたい

それぞれが自立した生活を送りたい

ハンモックでゆったり寝てみたい

裁縫やネイルのための趣味の部屋を設けたい
壁一面本棚にして、書庫的な使い方をしたい

庭でバーベキュー、庭でプール
ホームパーティ、キッチンを広くして料理、お菓子作りをたくさん

友達を集めてビールサーバーをレンタルし、ホームパーティをしたい
手持ちの簡易プールとすべり台で、夏はウォーターライダーを作って子供たちを遊ばせたい

広い庭で外から目隠しになるような木を植えて、庭でガーデニングや野菜を育て、パーゴラを置きたい

一部屋音楽部屋にしてみたい

バルコニーでウィスキーを飲みたい

家庭菜園や、花を咲かせたい

スタジオを作りたい

のんびり暮らしたい人、お友達を呼んでワイワイ過ごしたい人、仕事をしたい人、ひとりひとりの理想のライフシーンは十人十色。

【住んでみたい家に関する調査】まとめ

理想としている家や生活のシーンはひとつとして同じコメントはなく、家は生活するための機能や手段ではなく、しあわせな生活シーンを創造したり、演出する、生活の豊かさを高めるアイテムとなっているようです。

暮らしや価値観の多様化が進む現在の社会を反映する結果に。
家は生活するだけの場所ではなく、
それぞれが描く価値観を体現するひとつの手段となっている。

女性インサイト研究所所長 高田浩樹コメント



アベノミクスやオリンピックへの期待で、都心の分譲マンション価格が急騰しているという話題が席卷した時期がありました。今回の調査で、20～30代既婚女性の大半は最初から「都心のマンション」に大して関心を抱いていないことがわかりました。

今の20～30代が生まれたのは1970年代後半～80年代以降。バブル期に地価が高騰し、住まいが郊外へと拡大した時代でもあります。彼女たちが生まれ育った環境は「自然」の代名詞としての郊外ではなく、巨大なショッピングセンターやおしゃれなカフェが都会から拡散した、いわゆる「都市型郊外」。そこに育つことで、郊外ならではののんびりとした環境と「ミニ都会」の利便性を使いこなし、消費者として賢いバランスが自然と身につけてきました。

そんな彼女たちにとって、「家」を持つうえで大切なことは、ひと昔前のように必ずしも「都会にある」「都会にいる」ことではありません。都会へのアクセスさえ確保できれば、お買い物は十分にできる。それであれば、公園、子育てに関わる施設やサービスは過不足なく身の回りにあり、金銭的にも環境的にも余裕のあるところで、どこまでも自分らしく、ゆとりや遊びを楽しむ感覚を持ち続けるほうがいい…。そんな、「自分らしさを大切にできること」が、家選びにとっても重視されているという傾向が顕著に見受けられました。

現代の女性が「都市型郊外生活」に再び価値を見いだすのは、そういった意味でも自然なことではないかと思います。「便利さが際立つ街に、自分らしさが際立つ家」。ひとりひとりが描く理想の暮らしに対して答えを出す家づくり、というのが、今まさに求められているのではないのでしょうか。

郊外の豊かな環境を楽しみながら、都市の利便性も楽しみたい。

既婚女性の理想的な住環境は、「都市型郊外」と言えそうです。

その一方、「家」に求める思いや願いは、ひとりひとり違うようです。

都心に近いよりも、駅に近く、自分に近いのが良い。

画一的よりも、色々を選べる多様性がある方が良い。

家は、暮らしの機能や手段を超えて、女性の幸せな生活シーンを創造し、演出する、豊かな暮らしを実現するアイテムとなっているようです。